

稲荷町保育園

2024年度 自己評価報告書

1. はじめに

稲荷町保育園では、社会福祉法人としての責任のもと、2024年度の園運営と保育実践について、保護者・職員・園自身による3方向からの評価を実施いたしました。

その結果を以下の通りまとめ、公表いたします。

(こちらは児童福祉法施行条例第197条に基づき、保育の質の向上を目的として、保育所保育指針及び厚生労働省「保育所における自己評価ガイドライン」を参考に行なっているものです)

2. 保護者アンケートの結果から(利用者の視点)

2024年12月に実施した保護者アンケートには、全園児家庭の約9割から回答がありました。

- 園の保育理念・方針について「知っている」「少し知っている」と回答した保護者は全体の98%を占め、方針の共有が進んでいることが確認されました。
- 子どもが楽しんで園に通っているかについては「はい」「だいたいそう思う」が全体の96%を占め、日々の保育に対する信頼感が高い結果となりました。
- 「子どもの様子が伝わっている」との評価も90%以上に達し、連絡帳や送迎時の対話など、日常のコミュニケーションが機能していることがうかがえます。
- 一方で、「意見や要望を伝えやすいか」については肯定率がやや低く、「伝えづらさ」を感じている保護者も一部に見られました。今後は対話の機会を工夫していきます。

3. 職員自己評価の集約から(保育士等の視点)

職員による自己評価(記述式含む)より、園内の取り組み状況や個々の課題意識が可視化されました。

- 「子ども一人ひとりの気持ちに寄り添う保育ができた」「子ども主体の環境づくりに努めた」との回答が多く、現場の保育実践は安定的であることが確認されました。
- 「保護者との信頼関係が築けた」との回答も多数あり、日々の丁寧な対応の積み重ねが見られました。
- 一方で、「チームの一員としての連携」「職員同士の報連相」などについては一部に迷いや課題感が見られ、組織的な育成と連携体制の改善が求められています。
- 今後の取り組みとしては、「ふれあい遊びの充実」「五感を使った活動」「園でしかできない体験」など、保育の質をさらに高めようとする前向きな目標が多数見られました。

4. 園全体の自己評価と法人の総括（園全体としての視点）

運営方針の実現度：「子ども一人一人のより良い育ちのために最善を尽くす保育を目指す」の保育理念が各クラス・日常保育に浸透し、子どもの主体性や思いやりが育まれています。

事故・苦情・ヒヤリハット：重大事故・苦情はなく、ヒヤリハットの報告・対応は継続的に実施。安全管理体制はおおむね機能しています。

研修・育成体制：キャリアアップ研修や園内外の学習機会が確保されており、今後はその成果の実践共有を課題とします。

地域との連携：地域で行なわれている行事（八坂まつりの見学）などの継続はできておりますが、地域住民や未就園児を対象とした園行事の公開等は、コロナ後の回復期としてやや停滞している面も見られました。今後は新しい形での地域参加のあり方を模索します。

職員定着率：全体として安定的な職場環境を維持できました。

園としての振り返りでは、保育の実践力と現場の安定感に対する一定の手ごたえがある一方、以下の課題を共有しています。

- 組織的な育成・研修・会議の体制を見直し、チームとしての機能強化を図る必要性
- 働きやすさの制度面（例：土曜出勤・代休・保育室配置）の検討
- 育成や評価が「やりっぱなし」で終わらないようにする仕組みづくり

これらを踏まえ、2025年度は次の重点方針に取り組みます：

<2025年度に向けた重点方針>

1. 職員育成の体系化と記録の見える化（ICT活用含む）
2. 報連相を促す風通しの良い職場づくり
3. 園内研修・職員会議の再設計と活性化
4. 子どもの育ちと職員のやりがいを両立する保育環境づくり

5. おわりに

稲荷町保育園は、「子ども一人ひとりのより良い育ちのために、最善を尽くす保育」を実現するために、今後も保護者・地域・職員と共に歩んでまいります。

日々の小さな声を大切にしながら、安心できる環境とあたたかい保育の質をさらに高めていく努力を重ねてまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年（2024年）5月

社会福祉法人和順会

稲荷町保育園 園長 押野見 孝道